

単施設研究用

当院の末梢血幹細胞採取における白血球分画が CD34 陽性細胞回収率に与える影響の検証に関する情報公開

1. 研究の対象

2017年3月23日～2021年10月21日の間に、自家末梢血幹細胞採取において CD34+回収率の算出を行なった方

2. 研究目的・方法・研究期間

自家末梢血幹細胞採取に際し、CD34 陽性細胞数 (CD34+) の予測法は未確立であるが、採取前末梢血 CD34+が目安とされています。当院では、CD34+回収率算出を目的に採取当日の末梢血 CD34+数と採取産物内の CD34+数を測定しています。また、CD34+回収率から処理血液量を決定しています。当院での自家末梢血幹細胞採取における CD34+回収率の平均値は 44.7% ですが、実際の CD34+回収率にはばらつきがあり、移植に必要な CD34+数を採取するための至適血液処理量の算出が行えていないのが現状です。

これまでの報告では、採取前末梢血中の白血球数・CD34+数・ヘマトクリット値と CD34+回収率との相関が確認されているが、白血球のどの分画が CD34+回収率に影響を与えているのかは報告されておりません。

そこで私達は、既報されている関連因子と白血球分画及び採取モード、ブラッドアクセスの種類、採取前実施化学療法の有無、モゾビルの投与有無などの予測因子を後方視的に解析し、各白血球分画が CD34+回収率に与える影響を検証することに致しました。

また、CD34+回収率が平均値未満となる群と平均値以上群で同じ検証を行い、CD34+回収率が平均値未満となる群の特性を明らかにします。

それにより採取前に CD34+回収率が平均値未満となる可能性を予測することが可能となり、より実測値に近い CD34+回収率の予測値を使用した至適血液処理量の算出が実施可能となることが期待されます。また、採取前に至適血液量の算出が可能となれば、事前に採取可能な CD34 陽性細胞数を把握でき、計画的な末梢血幹細胞採取の実施が可能となります。

研究期間：2021.12.01（実施承認日）～2022.10.29

3. 研究に用いる試料・情報の種類

主要アウトカム：CD34+回収率

予測因子候補：採取当日末梢血 WBC 数、リンパ球数、ヘマトクリット値、単球数、血小板数、BLS%、MYEL%、META%、SEG%、CD34+数、処理血液量、採取モード（CMNC/MNC）、ブラッドアクセス種類、採取前実施化学療法の有無、モゾビル投与有無

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先の連絡先：

住所：愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 65

電話：052-744-2652

研究責任者：名古屋大学医学部附属病院輸血部教授 松下 正

担当者：名古屋大学医学部附属病院輸血部看護師 古村 恵理